令和6年度　議会報告会・意見交換会実施報告書
総務常任委員会

令和7年1月24日
真岡市議会　委員会室

◆意見交換会

各地区区長会正副会長が考える自治会の未来について

◆参加者

各地区区長会正副会長　：
橋本　　文雄　中村地区会長
海老原　悦郎　真岡地区会長
大島　　基圓　山前地区会長
二川目　政仁　大内地区会長
佐藤　　博　二宮地区会長
吉田　　弘　真岡地区副会長
本坊　　順一　真岡地区副会長
井澤　　杉生　大内地区副会長
菊地　　透　大内地区副会長
杉山　　務　中村地区副会長
柳　　幸雄　二宮地区副会長

総務常任委員会　：
春山　　則子　委員長
添野　　郁副　委員長
中村　　和彦　委員
渡邉　　隆　委員
大瀧　　和弘　委員
日下田　喜義　委員
櫛毛　　隆之　委員

◆意見交換会の内容

Q. 自治会で力を入れていることは？

●とにかく人を集めるために何かをやってみるというのがコンセプトである。春のさくら祭り、夏祭り、秋祭りやその他サロンを年に 10 回ぐらいやっている。今年は並木町 50 周年ということで 11 月 20 日に記念式典をやるが、どうやったら人が多く集まるか、それを考えて事業をやっている。

●一番の問題は、区画整理である。過去の経過もあり、非常に困難である。また、道路拡張も6件あったが、市役所には申請書を出して、建設課と打ち合わせをして何回もお願いして本当に苦労した。

●継続してきた事業については、無くさずに続けている。

Q. 自治会活動を通して感じていることは？

●自治会活動というのが、その地域にとって、どういうメリットがあるかということを、我々がなかなか伝えきれていない。行政側の自治会活動に対する支援、援助を、期待している。
●学校教育と自治会活動は、距離を狭めていき、学校教育の中でもっと地域を理解するような、或いは地域貢献を進めるよう、真岡市で取り組んでいってほしい。
●コミュニティスクールについては、いきなり校長先生が来年からやりますよと言われた。その前の段階で、地域の代表としての区長に、こういうことやりますよと示してほしい。
●小学校は、小規模校のいいところをどんどんPRしてほしい。それを地元で盛り上げていきたい。
●男性だけで考えた役員会では駄目だと思う。公民館長でも町会長でもどんどん女性にやってほしいが、なかなか出てこないのが現状である。

Q. 地域公共交通に対するご意見は？

●利用者が少ないため、無駄でやめた方がいいんじゃないかと言う人もいるが、定着には時間がかかるため、それは仕方がないと答えている。
●もおかべリー号は、地域を一周しなければならない。時間によって、逆コースで回ってくれるのがあれば選択できて便利である。
●高齢者等はバス停まで行くのも大変である。ルート上で手を挙げれば、どこでも止まってくれると便利である。
●買い物をした後、乗り合いは荷物の置き場所に困るとの意見もあった。
●目的地までの乗車時間、待つ時間も含めて負担が大きい。いちごタクシーの方を充実してもらった方が田舎の場合はいい。
●もおかべリー号は乗換えが大変。日赤や市役所などを直接回るルートを作ってほしい。
●いちごバスは利用者が増えて、バス停で座って待ってる人が増えた。ただ自由度がないので、利用率は上がっていかない気がする。電話をかけて来てもらういちごタクシーみたいに自由度がないと、遠回りだったり待ち時間が増えたり、不便である。

Q. どんな自治会にしたいか？

●地域に若い人たちがどんどん入ってきているので、自治会に入ってもらうため、自治会費を上げない。月 200 円、1 年間で 2400 円の自治会費で、自治会活動の全部を賄う。将来的にも絶対 200 円以上に上げない。
●目指すのは綺麗なまちづくりである。4 つの公園と 1 つの広場があるが、5 月から 10 月の金曜日に役員で草刈をしている。道路に散乱しているごみを多くの人が毎日のように拾ってくれている。

●人の繋がりが薄くなってしまった。子供育成会や防災関係にも必要なことである。

●小さい集落だが、三世代交流を目指して、地域福祉事業や甘酒祭りなどの集まる機会を作っている。若い人は、事業そのものが面倒だからやりたくないと考えているので、どのようにしていくのかが課題である。

Q.「その他」

●出生率について、令和 4 年度は国・県の平均よりも真岡市は低い。これから学校の統合も進むだろう。これまでは、小学校同士を統合して、学校規模を保つようにしてきたが、義務教育学校という考え方がある。議会の方からも教育委員会に働きかけ、ぜひ取り組んで欲しい。

●高齢者が住みよい街を目指し進めている。高齢者には資源ごみ置き場までが遠いので、玄関に置いてもらって、区の役員がボランティアで公民館に運んでいる。

●防災マップはもらって避難所もわかるようになっているが、そこに、どういうものが備蓄されているか、どこにあるのか、全く把握できてないので、その情報がほしい。また、防災関係の訓練を、出前講座でもいいので、実施してほしい。実際に起きた場合、最低どういうことをやる必要があるかというのは、やっぱり 1 年に 1 回繰り返しやる必要がある。

●門前地区の再開発が以前に持ち上がったが、地元の反対でできなかった。再度提案はなかなか難しいが、木綿会館など綺麗にしたので、夏祭りなど人が集まれるような場所にしたい。

●地区が申請してからもう 40、50 年経ってる道路の整備を、順番でやっているというけども、順番がよくわからない。見える化してほしい。

●物部は高齢化が進んでいる。物部から若い人が街の中に行ってしまう。これからますます高齢化が進むのではないかと思う。そのためにも、北関東自動車道のスマートインターチェンジの設置などが 1 つの方法と思う。

●民生委員を選ぶのが難しい。ボランティアが基本だけど、その待遇も含めて、もう少しフォローしてほしい。

◆所見

この度は、真岡市の各地区の区長会の役員との意見交換会を実施することができた。各地区の意見を代表する区長会との意見交換の機会を得るのは、各々多忙で日程を調整することが難しく、これまでできていなかったところである。今回このような機会を持てたこと事態が大変ありがたく大変貴重なものとなった。

真岡市の未来は、未来に向けた市民の考えと希望の結果である。その市民の多種多様な考え、意見を整理整頓して一つの総意にまとめ、その責任と権限を持っているのが区長である。その努力と苦労が、区長の責任感と自信の裏付けではないかと感じた。

各区長も自らの自治区に戻れば、新たな世代や新たに区の地域に入って住居を構えた人などが、自治会に入ることに魅力と価値を感じられず、自治会への加入率も低下しているのが現状である。

また、区長や区の役員の方は、区内の方がより楽しく充実した日を送れるよう、より一層の魅力ある絆づくりと活性化の事業を計画し実施しているところである。そうしながら、自治会活動の魅力、価値をしっかりと伝えて、地区の絆を深め、区の伝統を維持することが大きな課題であり目標となっている。

今回の課題についても、これまでの区長としての経験と苦労、また地区内の意見をもとに述べていた。すべてが具体的であり、日ごろから地区内の意見を取りまとめながら、地区の生活環境の改善、活性化に真剣に取り組んでいる結果ではないかと感じた。

今後とも、市民の意見をもとに、真岡市の輝かしい未来を築き上げるためにも、各地域の区長との連携、意見交換は必要なものであり、このような意見交換の機会を継続していかなければならないと思った。

令和6年度　議会報告会・意見交換会　実施報告書
民生文教常任委員会

令和7年2月1日
真岡市複合交流拠点施設 monaca　会議室

◆参加者

真岡市ファミリー・サポート・センター　：
　大塚　愛美さん（提供会員）
　青木　理恵さん（両方会員）
　平井　瀬里亜さん（依頼会員）

民生文教常任委員会　：
　麦倉　竹明　委員長
　久保田　武　委員、七海　朱美　委員
　星野　守　委員、荒川　洋子　委員

◆議会報告会

「民生文教常任委員会の活動報告」
・真岡市議会の委員会について
・令和6年定例会（6月・9月・12月）の審査内容について
・行政視察について

◆意見交換会

育児と仕事の両立について
子育てしやすい街づくりについて

◆意見交換会の内容

Q. 真岡市ファミリー・サポート・センター（以下、ファミサポ）をどのように利用していますか？

●提供会員として、保育所や学童保育、塾への送迎や、お子さんの預かりを行っています。
●依頼会員として、休日保育が利用できない日などにファミサポを利用しています。ファミサポは頼りになる存在で、とても助かっています。

Q. 育児と仕事をどう両立していますか？

●以前は幼稚園や保育園で働いていましたが、現在は在宅で仕事をしています。大変な思いをしているお母さんを助けたいと思い、提供会員に登録しました。自分の子どもの野球観戦や、ファミサポで関わるお子さんの成長を楽しみにしながら、仕事、ファミサポ活動、子育てを両立しています。

●リハビリ系の仕事をしていましたが、結婚を機に退職しました。仕事をしたい気持ちはありますが、現在は自営業の夫のサポートと子育てに専念しています。ファミサポの預かりを利用したり、時間があるときは提供会員として活動したりして、子育てと両立しています。

●保育園の預かり時間や延長料金の問題で、終業時間の遅い医療事務の仕事を続けることが難しく、出産を機に退職しました。子育て中の孤独を経験し、疲れた人を癒す場所を作りたいと思い、起業しました。現在は、仕事で休日のイベントに参加する際にファミサポを利用し、育児と仕事を両立しています。

Q. 育児と仕事を両立するために、真岡市に求めることは何ですか？

●真岡市には託児所が少ないと感じています。もし子どもの遊び場と託児所が併設された施設があれば、お母さんたちも安心して利用でき、幅広く活用できると思います。

Q. 子育てを通して、地域の方々と交流することはありますか？地域とのつながりについて、どのように感じていますか？

●子ども会に入っていれば地域とのつながりがあるのかなと思いますが、今は入っていません。

●同じ年齢くらいの子どもたちがいる地域ですが、あまり外で遊んでいる子どもは見かけません。共働きのお母さんが増えたこともあり、帰宅後に外で遊ぶことが少なくなったのではないかと思います。

Q. 真岡市をより子育てしやすい街にするためには、どのようなことが必要だと思いますか？

●母乳育児に関する自費診療について、補助金があれば良いと思います。

●ファミサポは、急な子どもへの対応や手不足を補うための援助ですが、虐待などのニュースを聞くと、子育てに煮詰まっている時に預かってあげたいと思うこともあります。

Q. その他、何かあればお聞かせください。

●子育てが辛い時や買い物に行きたい時に、「ファミサポに頼っていいんだよ」と声をかけることが大切だと思います。広報紙や SNS ではなく、乳幼児健診の際などに、人の声で直接伝えてあげることが、お母さんの心に一番響くのではないかと思います。

令和6年度　議会報告会・意見交換会実施報告書
産業建設常任委員会

令和7年1月31日
真岡市議会　委員会室

◆参加者

栃木県立真岡工業高等学校生徒　：
　建設科3年
　　川田峻大さん、林悠人さん
　　船橋颯太さん、村岡叶夢さん
　　渡辺輝清さん

　建設科2年
　　高坂洪心さん、湧井謙斗さん

　建設科1年
　　髙橋優心さん、ナリカイチさん
　　平山文太さん

産業建設常任委員会　：
　服部正一郎委員長、上原チョー副委員長
　飯塚正委員、柳田尚宏委員
　鶴見和弘委員、市井元委員
　大隈広郷委員

◆議会報告会

「産業建設常任委員会の活動報告」

・真岡市議会の委員会について

・令和6年定例会（6 月・9 月・12 月）の審査内容について

・行政視察について

◆意見交換会

　真岡市の工業について

◆意見交換会の内容

Q1. 今の勉強を将来どのように活かしていきたいですか？

●設計士になりたいのでCADを活かしていきたい。

●地震対策、気候変動を考慮した設計をやりたい。

●現場監督に関しての勉強をしたので、現場監督としての知識を活かしていきたい。

●建築基準法や建物の構造などの施工の仕方などをたくさん学ぶことができるので現場監督という職業で活かしていきたい。

●建築大工の仕事につきたい。授業で学んだことを活かしていきたい。

●強度がある建物をつくりたい。

●地域貢献やボランティアに活かしていきたい。

●佐官業を将来やりたい。

Q2. 工業高校で学ぶ中で、どのような支援が必要だと思いますか？

●実践的な実習の充実だと思う。

●家の組み立ての実践を見たい。

●工業高校は実践の授業が多いので、新しい設備と技術が必要だと思う。

●勉強の幅を広くするためにも加工機械があるといい。

●補助金等の資金面での支援が必要。

●無償で技術を身に付ける制度が欲しい。

●インターンシップを増やして欲しい。

●学校に専門家を呼んで技術を身に付ける。

●学校で心理的なサポートをして欲しい。

Q3. 地元で働くことについて、どのように考えていますか？

●地域発展や町おこしになるので、積極的に地元で働いた方がいいと思う。

●地元で働き、祭り等のイベントに関わっていきたい。

●地元の方々への関係が築けるので地元で働いた方がいいと思う。

●地元で学んだ知識を地元の地域発展にお返ししたい。

●自分が学んできたことを地元に貢献することで、今まで育ててくれた人たちに恩返しできるので、地元で働くことがいいと思う。

●今まで生活してきた場所を自分が支える場としていきたい。

●自分で作った物が形になり、地元にあるのはうれしい。

●幅広い製品を作り地元に貢献したい。

Q4. 建設・土木業界ともに人手不足が問題ですが、どうすれば解決できると思いますか？

●小中学校で建設業の大切さやすごさを伝えることがいいと思う。

●職場に清潔に保てる施設を増やしたら人が増えてくると思う。

●プログラミング、工業系の体験ができる様な授業の時間を増やして、工業という魅力を幼い頃から勉強するカリキュラムを作成する。

●小中学校の工業体験の時間を増やす。

●外国語を学ぶことによって、外国の方ともコミュニケーションすることで、外国の方が働きやすい様な仕事にすれば、人手不足が解消できると思います。

●多くの外国人作業者を取り入れる。

●女性が少ないので、建設業について女性でも興味を持たせるためにパンフレットを作るのはいいと思います。

●高齢者の中に若い人が入ると、ギャップが生まれるので仲介人を取り入れる。

●育成制度を含めて、会社の福利厚制をしっかりする。

●ジェンダーバリアを無くして、安全性の向上に努める。

●建設に参加出来る機会を増やせば良い。

Q5. 真岡市にあったらいいと思う施設や政策はありますか？

●LRT を真岡まで持ってきたい、交通の便を良くしたい。

●真岡市ならではの観光施設を作れば、さまざまな方が来ると思うのでそういう施設があるといいと思う。

●小さい頃からの美術に関する興味を持つために美術館があるといいと思う。

●運動出来る施設が欲しい。

●スケボーが出来る施設が欲しい

●地域交流出来る施設がないので欲しい。

●公共交通を充実させ、人を呼び込む。

Q6. 10 年後の真岡市はどうなっていてほしいですか？

●交通の便を普及させて活気ある真岡市になって欲しい。

●アミューズメントパークが増えることによって、若い人がここに住みたいと思えるような街になって欲しい。

●環境を守りながら、いろんな施設があってお年寄りも子どもたちも、両方が元気に過ごせることができ、なんの障害もなく和気藹々で活気のある真岡市になってほしい。

●緑を守りながら建物も違和感のない同化した調和した市になってほしい。

●ゆっくりできる施設や観光施設を作ったりして、今の若い人が出ていかない真岡市になっていてほしい。

●子育て世帯が引っ越して、賑やかな街になれば良い。

●自然を守って、文化と歴史を引き継ぐような街

●アクセスが楽になり、楽しい街になれば良い。

Q7. 若者の声を市政に反映させるために、市議会や市役所にどのようなことを期待しますか？

●このような場を、学校代表や若者代表という参加型の交流会を増やしたら若者の意見が反映されると思う。

●こういう直接対話できる機会がたくさんあるといいと思う。

●オンラインでアンケートを取り、年齢層毎の意見を分析する。

●イベント等の人が集まる場所で、アンケートを取ってもらいたい。

●SNS を活用して色々な情報を共有して欲しい。

●タウンミーティング等を設けて、若者の直接の意見を聴いてもらう。